夕刊
磐城新聞
三月七日發行
發行所 磐城新聞 合資會社
(日曜祭日翌日休刊)
振替東京一〇八五五六五番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は北の風曇小雨
明日は東の風曇後晴

随筆 身邊のこと(二)

島田忠夫

その後、青沼老市長には弔狀を寄せた。市長からに早速、お手紙に接した、老いの目をしばたたいて昔かれたものと思ふと、私も又、熱い泪にくれるのであつた

×

赤羽翁はお元氣だつた。ただ、耳がとほくて、大いびきで、これは随分をかしかつた、一昨年の夏、しばらく北斗莊に御厄介になつた折、田町へかへつては高久院長の奥様と、笑ひ合つたことであつた。

しかし、老いて純正俳道の為め、あれほど眞劍だつた人は、珍らしいと思ふ。尊敬せねばなるまい。

×

この二氏の墓參は三月末頃までには果たしたい。目寶寺であるといふから、序でに、久しぶりで天田愚庵和尚の祖先の墓所にも詣でたいものと、ひそかに思つてたのしんでゐる。

◎秋間小路君の遺稿

このあひだ、雑誌『むらさき』社へ原稿料を貰ひにゆくと、ちよつと會ひたいといふ社員がある。誰れかと思つて待つと、青年社大が出て來られて

『あなたの原稿をよく戴いてゐながら、始めてお目にかかります。秋間ですョ』といふ。これが秋間文夫君であつた。

秋間君は、先年平で亡くなられた、秋間小路君の養子となられたうである。平の神谷家から令夫人を迎へられたさうである。いろ〳〵話し合つて、大へん樂しかつた。なせなら、平で齒科醫をされてゐる神谷辰雄君の令妹を夫人にされたといふが、辰雄君と私は、小學生の頃は同級であつた

賀立花君表彰

自治功勞 珠雲 小野稀平

實踐躬行盛德全
自治多年九功宣
聖明佳節旌勳績
異數恩榮比誰肩

3月8日
△度量衡を定む(大寶二)△尿道線發見者リーパー歿(一、七〇九)△ニコライ開堂式(明治二四)

時吟「凱旋」

平 華生

○落すのは皆惜しそうに將部隊
○この將が物を云つたと特務兵
○九人斬つた人に似つかぬ優さ男
○鬼伍長と云はれた人がはにかみ屋
⊙まあ一時身体休めて又と云ふ
○父ちゃんを人にとられてべそかく子
○三軍を叱咤の將も孫に負け

雪國・橇(三)

高瀬勝男

雪國の人達は親切だ、丁寧だ、謙遜だと。細かく心づくはしはしをたゝんで、人懐さの温情が魅惑してしみじみと、じみじみと惡敵ひわが土地に較べる。なんだか冷え切つた躰に温く流れてくるものがあるのだ宿にくつろいて、日常の煩 営業室の起居、ここに 昨日、雪の冷えやらず、曇天

明日も雪降るといふのだが、たまらなく、いまわよくなつて、旅の恥はかきすてずに溶泉によかたがとのばす兩肢、この土地にしばらく暮してみたくなつた。雪に閉されながら、いよいよ、喚澄する情熱をもつて茅春の希望に抱く、忍從。雪國特有の重厚さのなか存分に、したつて過したいとての、わが土地のなかにつぬげて狹い不愉快あり、やがて朗々たる新緑一勢の、く

る樂しさに默々と力行する純心さ。たまらなくよいではないか、橇ーをひく人間の腰の張。脈々たる、山壁のもと、かなた先方、或ひは雪國に點綴する行人、皆一つの市街から、一つの村落に連國する生活がある。いづれも橇が便ずると云ふ滑々と凍つた雪面、橇がひても印象的な音をたてて通つてゐる

(完)

講談 悲戀 髑髏組(どくろぐみ)

(132) 林杢兵衛作 金子士郎畫

油地獄(五)

『ね、小父ちゃん、ある』

『――あるよ』

『あたいのお父ちゃんも、お母ちゃんも、それから彌ツちゃんも、みんな泥棒に殺されちやつたのよ』

『…も、あたい一人は奥に寢てゐたから助かつたの』

『――』

『小父ちゃん、あたい、今に大きくなつたら、お父ちやんや、お母ちゃんの仇敵を討つてやるよ、小父ちゃんも手傳つてね』

『――』

『ねゝ、小父ちゃん、どうして默つてるのお頭が痛い』

『――』

刑部は、兩手で頭を抱へたまゝ、深く首垂れてゐる

『ね、小父ちゃん、お頭が痛いの』

『うゝ痛かないよ、あゝこんないゝ子のお父ちゃんやお母ちゃんを殺すなんて、どう云ふ憎らしい泥棒だろう、屹度、小父ちゃんが加勢して、仇敵をとつてやるからね』

『え、有難う、小父ちゃんだつてさう思ふでせう、あたい本當に口惜しいのよ』

まだ、やつと七つになつたばかりの少女お咲だが、おぼつかなくあやつる舌の根、その一言一句が、刑部の胸に犇々とこたへて痛かつた。

『咲ちゃんは、此の小父ちゃんの子になりたいかい』

『ねゝ、してくれる小父ちゃん』

『うん、してあげてもいゝが、今から直ぐは駄目だよ、今居るお家へ一度歸つてからでなきやア』

『厭や、厭や、厭や、厭やだ、父やん、今のお家へ歸ると叱られるんだもの』

今にも泣きたいやうな顏になつて、激しくかぶりを振るお咲の、そのいぢらしい姿を見ては、また良心に一しきり責め苛まれる刑部である。

(濟まない許してくれ)

心で謝罪しながら、目頭を熱くして、また膝へ抱き上げた。

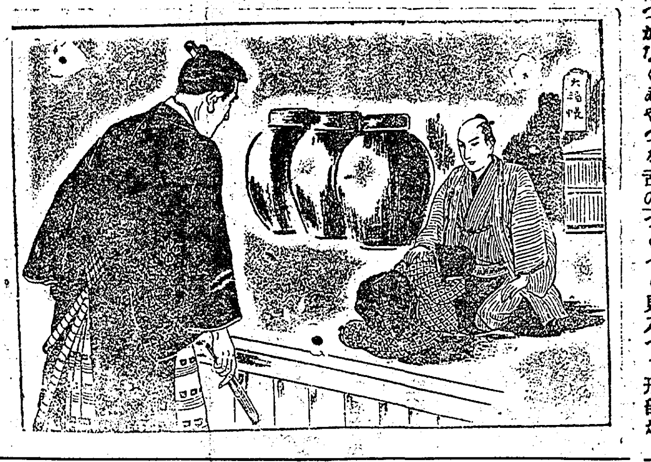
『いゝよ〳〵、ちやア今から小父ちゃんの子になるんだ。お家のことは心配しないで、さ、寢んねをおし』

許されて、さも嬉しさうに、濡れた頰を、刑部の胸に押し當てたお咲。

『小父ちゃんの子になれてあたい嬉しいのよ、小父ちゃん』

と、云ひ〳〵、刑部が靜かに背を撫でてやると、いつの間にやら、可愛い寢息を立て出した。

仇敵とも知らないで、茲母の懐にでも抱かれた心地か、無心に眠るその顏を、つくづく見入つて刑部が



『佛心だ』と叫んだ。

(此のお咲を、自分の手で慈しみ育てゝやれば、それが過去の罪業のせめてもの償ひにならう)

さう思つて刑部自らを慰めると、重苦しく凝結した胸も幾分は薄らいで來る。

お咲を兩手に抱いて、刑部はやをら立ち上つた。

奥の間で、安らかに眠らせやうとする慈愛の心からと、その時。

店先へ、ヌーツと物も云はずに這入つて來た男がある。往來の人目を憚るやうに暖簾の裏へ身を寄せるその擧動。

『刑部殿、暫く………』

ハツとして振返れば、それは意外にも下總の權十郎

『おゝこれは』

驚く刑部にかまはず、權十郎は默つて奥へ通つて行く。

廣告

おでん 一平(イッペイ) 電話二六三番

酒とマヅイ おでんの榮ちやん 平市田町花ノ里 電話三三三番

實用新案 第一八七四三〇號 意匠登録 第六六一六七號
石山式 石綿ムシカマド
こんな經濟的な『かまど』は他にありません
安價な燃料で濟み、保溫力が強く堅牢で火の元絶對安全！、御使用に御便利な！石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、たすゝめ致したい新製品で御座います。

和洋銅物 金物問屋 平市五丁目 釜屋商店

鑑定項目
名前のみで一代の運命……何んでもわかる
體力 肉体 疾病(健康、不健康、相貌)(病根病勢、病名)に關する一切
活動 職業 天運(適業、不適業)(天運、不成功、炎厄)に關する一切
血縁 家庭運 男女縁(父母の縁、夫婦の縁 子供有無)(氣質、相性、相尅、婚期、方位)に關する一切
銀行、會社名、商號、家號、會名、雅號、藝名、養子、養女、生名、生兒名
日本姓名學會東北支部長 鵜沼孝昌 平市紺屋町六

平市田町 高久病院 (電話五三一番)
內科 小兒科 醫學士 高久忠
外科 花柳病科 新潟醫學士 赤羽清
耳鼻咽喉科 藥劑士 佐竹菊雄
(看護婦至急募集)

吉田眼科醫院

東西會社の新商品 石鹼 齒刷子 齒磨 連鎖店にあり
良い電球は眼の護り
國產 トウランプ

精神病科 腦脊髓病科 神經病科
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
內務省指定 福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生 電話九二五番
入院隨時 院長 醫學士 金森五郎

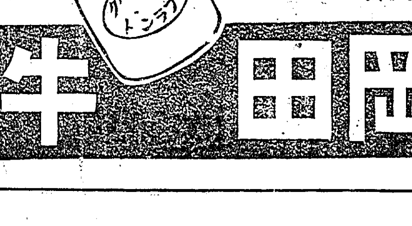
耳鼻咽喉科專門 レントゲン科
高柳醫院 平驛前 (電三三六)
醫學博士 高柳博明
看護婦募集

東北の銘釀
特撰 銘酒 嵐山 心氣陽祭
平市三丁目 上總屋商店 電話七三一番

耳鼻科 咽喉科 專門
大和田醫院 平市南町一六番地 電一七〇番
(入院隨意 病室完備)

產科 婦人科 專門醫院 根本醫院
平市南町五二 根本莊次郎 根本貞雄 電話三四番
(手術室完備 入院隨時)

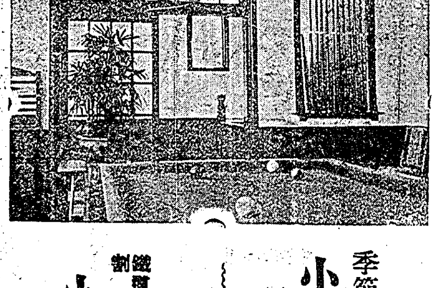
旅舘 大幸舘 電話下谷(83)六七七番
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄
東京上野驛前 下谷郵便局橫通角

斷然一賣行よし 信用と品質と共に備つて
低溫殺菌


岡田牛乳
平市鎌田町 電話五一番

外科、內臟外科 エツキス光線科 新設……產婦人科
院長 安齋徹 醫學士 黑澤
入院隨意 安齋醫院 平市田町 電話四七五番

生花教授
池ノ坊 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平市四丁目和泉屋旅舘
須藤まつの



季節料理 小鳥料理
鐵道指定旅館 割烹 小瀧鑛泉 電話小名濱一〇三

月曜論壇
虚禮廢止に就て

近來國際間に於ける儀禮にも事務的形式化した愛想の交禮、慶弔の贈答等から所謂生活改善の趣旨から、漸次廢止或は簡易化されとんしつゝある折柄陸軍が出征部隊の交代歸還の爲め今後召集解除される將兵に對し餞別返しの苦勞を除くべく夫々關係筋に通牒を發した事は時節柄眞に當を得た措置と云ふべきである。惟ふに今次事變に際し、帝國生命線の保護に身命を賭して國民最高の任務を遂行した我が忠勇なる將兵の赫々たる武勳こそ、吾々銃後の護りにいそしむものに取つて眞に唯一無二の土産であり、此際金錢を以て評價し得べき恒行の儀禮と較ぶべく崇高偉大なる國民的家苞である。而も時局は彌々倍々重大を加へんとしてより銃後の核心たらんとする覺悟を强調せねばならぬ時に於て極めて無意義なる虚禮の贈答などは盡く百害あつて一利無く、お互戒心一番を要する處である。抑働き盛りの壯年兵が隊伍を解かれて正常の業務に還るは單り其の家族の喜び許りで無く、長期戰に入る銃後の爲に之より力强い補强は無い、海に山に手不足を感じた地方漁農村が之によつて緩和さるる處大なるは云ふ迄も無く殊に地方の炭礦等に於て刻下の急需に對し往々滿幅の供給に出でられなかつたとせば、今回第一線の御奉公を了つて歸還した之等の勇士を更に産業戰線に迎へて生産の伸張に資する事は國家産業陣營の爲め衷心祝福すべきである元來虚禮に屬する餞別返しを當て込む不心得者は此際恐らく絶無と觀るべきで當面の問題は寧ろ其等の人々に對し、如何にして應召前の狀態に復活せしむるかである。殊に白衣の勇士と戰死者遺族の今後に於ける生活の保障に就ては往々困難な事情が存するであらう、除隊兵士のささやかな生計を惱ます虚禮廢止から一歩を之の方面の斡旋配慮に進めばなるまい

小名濱港頭の偉觀
町營魚市場愈よ起工
一昨五日地鎭祭執行

小名濱町魚市場建築はかねて工費五萬九千圓の起債が認可となり農銀より借入れをなす事となり旣に交渉成立を見たので建築材料を東京市市井商店と一萬二千圓で請負契約を結び建築工事請負は地方請負人より目下見積書を請求中であるので不日全面的工事に着手する事となり、一昨五日正午から同町海岸建設現場に於て小野社長、鈴木、田倉兩重役、田子顧問其他全社員、地元有志等多數列席、地鎭祭を執行したが來月末まで完成の豫定である、同建物は半鐵筋、間口五十一間奥行十二間半の堂々たるもので完成の曉は縣下隨一の水揚げ市場として偉觀を誇ることにならう

青年學校講習會

郡下を二分し青年學校體操科教授及訓練講習會を三月十六日、七日平第一校、同十八、九日植田校の二ヶ所に開く。講師は縣體育運動主事山本壽延氏第一日午前九時から午後四時まで、第二日は午前九時から正午迄、講習員は青年學校體操科擔任教員並に教授料指導員、講習實習を行ふ

嬉しい春の序奏
日曜の暖かさ
公園は子供の樂園

―きのふ―

◇きのふの第一日曜は午ごろ一寸風が强かつたが朝來の暖かさに惠まれて日曜を解放された人達のそぞろ歩きに街は、郊外はもうスツカリ『春の表情』◇くたびれたオーバをサラリとかなぐりすて、帽子なんぞは……といつた調子の身輕さ、フエルトの草履輕げにさんざめいて行く若い女達のショールも目立つて白い◇春日照々たる公園の梅林では子供らが群がつて戰爭ゴッコ。ここにも爭はれぬ時局の反映を見せて居た樂しい家族連れも幾組かあつて、更に裏公園の池畔には舟遊びする子供の聲も晴れやかだ、池の鯉はまだ冬眠蟄居中か、姿を見せない△そして、きのふに變るけふの天氣、これも春への序曲と思へば、窓打つ雨も嬉しいが

高等蠶業講習會

本縣養蠶教師協會主催高等蠶業講習會は七日から三日間市內世界館で開催講師は高野副會長、鵜飼技師、松本技師、湯島支場長、藤井中佐、比佐技師、三田村校長、麻生課長

貯金座談會
五日平局が主催

平郵便局では過般來全管に亘り國民總動員に伴ふ郵便貯金の勸誘中で殊に小學兒童を通じて『貯金は誰にも出來る御奉公』『國は我等の一錢に富む』等の標語を入れた愛國貯金奬勵のチラシを各家庭に送り極力趣旨の徹底に努めてゐるが一昨五日は午後三時から市內マルトモホールに於て郵便貯金報國座談會を開催營內軍人分會、青年團、會社、工場の關係者等の出席を求め

一、各員並に從業員に勤儉貯蓄の趣旨徹底の上貯蓄の實行方

一、從來の預金者に對しては此の際世話役に於て取纏方法

に就て懇談した

村田視學
郡教員異動のお膳立

本縣村田視學は八、九、十の三日間郡內各小學校を視察するがこれは今月末日の小學校教員異動を控へそのお膳立工作のため學校と市町村役場の事情を聽取し教員の首實驗をなすものである

多血症は骨髓の疾患
治療には瀉血が最適
松村醫學士の研究成る

戰爭醫學に一示唆

醫學界から不明とされてゐた『多血症』の原因ならびに治療法が名古屋醫大の一青年學徒によつて究明され、來る四月一日から京都帝大で開催される日本醫學會で發表されることになり醫學日本（ニッポン）に又一つ金字塔をうち建てた、これはまた非常時局下に於て『戰爭醫學』が叫ばれてゐる折柄頗る示唆に富む研究として注目されてゐる

市內松村鐵郎醫師の息、名古屋醫大齋藤外科副手松村亨醫學士（三二）―名古屋昭和區島西町三丁目十六―は昨年四月から眞正多血症の研究に着手、多血患者が普通の人より二倍三倍の血量のある爲め脾臟、肺臟、腎臟、肝臟等の外皮膚の表面に出血し其の爲め血壓が高くなり夜眠られず苦痛を訴へるワケー氏病となる病源並に治療法研究の爲め名古屋醫大が誇るアルバイト輸血からヒントを得て從來の貧血の際輸血する場合と反對の『多血輸血』を約六百頭の兎に實驗し其のため普通の兎より二倍三倍の多血になつた兎をあらゆる角度から研究した結果、赤血球、血色素血液量が二倍三倍になる赤けつ球容積は減るけふ性蛋白疑粘稠度けつ漿ビリルビンけつ小板は增す事まで解剖して見ると骨髓が著るしく變化して萎縮してゐる事が判明、これによつて今迄不明とされてゐた多けつ症は骨髓の疾患であると斷定され其の治療法も判明される事になつた、右に就き齋藤教授は語る

松村副手の發表は『多けつ輸けつによる實驗的赤けつ球增多症に關する研究』と云ふので多けつ症の原因が判明したばかりかこれにより將來戰爭の際戰地で多けつ症患者から盛んに輸けつすれば良いわけで戰爭醫學として研究の好題目で一面ちの『エコノミー』ともいふべきである

健。之。助。君。獻。金。

市內三丁目履物店小松三造さんの次男第一小學校四年の一組健之助君（一一）は毎日小遣ひを三錢づゝ貯蓄、銅貨ばかり一圓九十錢を昨六日恤兵費にと市役所へ寄託

一勇士も同列車で
凱旋第一陣に萬歲の嵐

赫々の武勳をお土産に一昨五日は旣報五氏の外市內出身で左記二勇士も同列車で凱旋、萬歲の嵐に迎へられて懷しのわが家に歸つた

大町淸水英、新川町松崎藤與

尚細屋町山野邊功氏も同日除隊歸鄕した

控訴審で執行猶豫
佐藤と横田平藏

市內大町三一古物商横田平藏（六二）にかかる窃盜並に贓物故買の控訴審を五日福島地方裁判所で原審通り懲役八月罰二年間執行猶豫、又正月町鐵工業兼古物商佐藤次藏（四二）にかかる贓物古買の控訴審理も同日福島地方裁判所で原審通り懲役三月二年間執行猶豫罰金三十圓の判決を言渡された

三吉丸遭難

江名町北町石川菊松氏所有漁船三吉丸（二十四噸）は六日午後六時頃歸港の途中小名濱沖約十浬の海上で所屬不明の五十噸位の材木船と船尾を衝突破損、航行不能に陷つたので江名港より救助船四艘が現場に出向いたが幸ひ死傷者はなかつた

澤。渡。區。長。改。選。

澤渡村第二區下市萱區長加藤龜治氏が辭職して後任に若松龜吉氏決定

人を求む

一、少年工場員

一、給仕

高等小學卒業程度の者

市內在住者に限る

磐城新聞社

列。車。妨。害。豫。審。終。結。

双葉郡熊町村夫澤製炭業糸井乘次（三五）かかる列車妨害事件は平支部關口豫審判事係りで豫審中七日終結、同支部の公判に附された

落。磐。

湯本町入山炭礦採炭夫武藤勘三郎（三六）は五日午後十一時頃六坑內で作業中落磐、六日死亡

徒。弟。の。行。方。？。

白河町中町塗師高阪勝郎方徒弟菊地義明（一九）は去る三日午後ブラリ家出したまゝどこへか行つてしまつたので勝郎より平署に捜索願

自殺女の死因判る

（一部既報）列車に飛込み自殺を遂げた相馬郡上眞野村引地うめよ（二〇）の死因が此程漸く判明した うめよは昨年七月看護婦を志して上京、講習等を受けて同十一月から本鄕區駒込千駄木町の某醫院で見習看護婦の傍ら本鄕看護婦學校に通學、この五月本試驗を受けるべく勉强中だつた 實家では試驗が通り次第目下第一線に活躍中の既報從弟荒川等君と結婚させる豫定でゐたがうめよは最近過度の勉强から神經衰弱にかゝり、去る二日歸鄕の途中平驛に下車、線路傳ひをふらふらとさまよつた上思ひ餘つて飛び込んだもの

三。阪。局。に。電。話。

三阪郵便局には公衆電話がないが附近民の要望により近く仙台遞信局で架設する

お披露目

開花から『友奴』が出現、生國の儀は提灯で名高い岐阜市でホーキまさに十七歲、長良川の水で磨き上げた綺麗くびとの評判

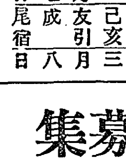
螢雪茲に五年
追憶の高月を去る
けふ磐中第三十八回卒業式

磐中第三十八回卒業證書授與式は今七日午前十時から擧行君島知事（代理正木磐女校長）淺水校長の告辭、訓話、來賓祝辭在校生送辭卒業生答辭等かたの如く正午終了したが卒業生は左記百八十四名である

◎印優等生

赤津善衛　秋山仁市　阿久津侃　明智博　安孫子貞男　阿部新平　◎阿部豊司　青戸兵司　石黑武雄　石坂幹雄　石井吉男　伊藤修三　磯上加衛　泉己代次　伊藤滑　伊藤茂　伊藤豊　岩崎愈太郎　飯尾貞夫　臼井一郎　瓜田久雄　植松茂　江連了見　小曾納昭　太田武行　大塚靜雄　大友美實　大平泰介　大平九十一　大平芳松　大間順三　大森昌一　河野和平　影山忠英　片寄一男　片寄藤次　片寄博　片寄勇太郎　勝倉文雄　勝沼俊也　上遠野馨　川上正義　川角滑　加美山啓介　北郷繁　木田茂義　木田志雄太　木田敏夫　草野仁良　久栖國造　桑島茂光　久保木文夫　栗原欣一　小林一男　小林正久　小林通繁　小松公平　小柳幸男　齋藤俊一　齋藤孝正　齋藤武　齋藤利夫　齋藤久　佐川正人　坂本勝信　坂本繁　酒井明　酒井弘文　佐々木高伯　佐々木良夫　佐藤正　佐藤久二郎　佐藤守　佐原久治　鮫島信雄　志賀純一　志賀秀直　四家貴良　志田茂好　柴崎秀典　鹽田壽男　白土長兵衛　白土弘　白土良平　白井敏　菅田市　杉浦直　鈴木一二　鈴木慶一　鈴木駒之助　鈴木重虎　鈴木誠一　鈴木健夫　鈴木忠三　鈴木弘之　鈴木康男　末永勝　關幸雄　園部健次郎　園部隆一　高木孝一　高木秀夫　高倉三郎　高萩政享　高橋善雄　高原四郎　立花長造　田中宗太郎　千葉明富　岡定良　豊島充夫　中川信一　永島友貼　永山定美　長山義彦　生田目耕平　新妻時夫　◎根本忠雄　根本透　根本芳弘　根本幾男　野木健男　橋本堅　橋本源藏　橋本光雄　八田宗市　濱崎廣太郎　濱島曉　比佐秀雄　菱沼三郎　蛭田丈夫　舟生保久　振濱武男　戶來盛　逢來信吾　星野喜四郎　堀越改造　松浦孝　松崎至男　松田良太郎　馬目一郎　馬目大　前田春雄　三田實雄　水野谷市郎　綠川浩行　宮澤光伸　室越廣美　森笠仲族　八代英　矢代弘文　矢野浩一　山崎道雄　山田二郎　山野邊武　遊佐晋夫　横內直寬　吉江忠德　吉田一興　吉田三郎　吉田尚　吉田武　吉田豊司　吉田伴四郎　吉田等　吉田浩　吉田益三　吉田幸　渡邊和夫　渡邊正保　渡邊正夫　渡邊裕　渡邊與志雄　和田浩美　猪狩三良　猪狩二郎　遠藤幸春　遠藤芳行　遠藤吉雄　岡部泰壽　小野離　小野忠弘　小野富房　小野文雄

舊	火曜	新
二月七日	己亥　友引　戌　尾宿	三月八日



諸判定總署 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 目上賢者の意見を尊重するが尤も安全の日▲二黑 慮ることと深く秩じよ正しければ甚だ大に定る▲三碧 物事もつれを生じ易し飲食物にも注意を要す▲四綠 そうと半ばにして外じやにさまたげられやすし注意▲五黃 營業には吉なれども新きの事には危險ともなふ▲六白 何となくそくぞくさる樣な氣持ちの去らぬ日▲七赤 內外共に無事にして目上とも親しみ有るべし▲八白 正し道をふみ拔け目なくば思ふ所に達す▲九紫 目上に逆らはぬ樣すべし外に在りて失物注意

八日（小名濱測候所發表）

滿潮 前七、二〇 後九、五〇

干潮 前二、四〇 後三、〇〇

廣告

磐城名物
靈峰羊羹
小川郷驛前 平屋賣店

恐るべき中風、腦溢血を速治せしむる
アイヨー錠
血壓を下げ、血管若返り、中風を全治し、早老及老衰を豫防す。
中風の原因は血管の硬化にあり血管硬化すれば血壓高まり精神的並に肉体的に退行現象を生じ所謂老年病を誘發し或は中風腦溢血を突發す。アイヨー錠の應用は血管に若返り現象を與へ老衰の進行を緩徐ならしめ初老及中老期に隨伴する總ての不快症を除去し中風を豫防す。
動脈硬化症、高血壓症、初老期に於ける体力及精力減退、中風、腦溢血の豫防に常用すべき貴重藥
百四十四錠（八日分）貳圓　四百八十六錠（廿七日分）六圓
千八百錠（百日分）貳拾圓
專賣店 山野邊藥局 平市五丁目（電呼六六八）

田每のみつ豆
白蜜と黑蜜
平市田町 電話六三二番

◉生徒募集
磐城佑賢學舍
◎中等科 中堅公民養成
◎專修科 受驗難關突破
▼無試驗入學許可
◎軍事教練の實施
◎商業簿記科ノ特設
◎古教科書半額以下ノ讓渡斡旋
平市城山 電話九三

固定給で生活保障
一、外交員を迎ふ
男女、經驗の有無に拘らず年齡二十五才以上の奮鬪家を求む
固定給の外步合を給す
（お希望者履歷書送附あれ、面會日通知す）
野村生命保險株式會社 平出張所 結城勝美
平市鷹匠町一番地

平市田町
井坂產科婦人科醫院
電話五五九番

平市南町
大和田醫院
電話一七〇番

皇軍を慰問しませう
慰問袋に……
郷土色滿點の
『潮の華』
慰問品に限り勉强致します。
平五 泉屋菓子舖 電話六六八